平成 27 年度 第 4 回石狩市健康づくり推進協議会

- 日 時 平成 28 年 3 月 9 日 (水) 18 時 30 分～21 時 00 分
- 場 所 石狩市役所 5 階 第 1 委員会室
- 出席者 下表のとおり

委 員			職 員 (事務局)	
役職	氏 名	出欠	所 属	氏 名
会長	阿部 包	○	保健福祉部健康推進担当部長	我妻 信彦
副会長	大林 啓二	○	保健福祉部保健推進課長	武田 渉
委員	中川 賀嗣	○	保健福祉部スポーツ健康課長	村谷 栄治
委員	我妻 浩治	×	保健福祉部国民健康保険課長	宮野 透
委員	天野 真樹	○	保健福祉部保健推進課主査	木澤 愛彦
委員	江頭 裕二	○	保健福祉部保健推進課主査	廣瀬 芳江
委員	廣島 孝	○	保健福祉部保健推進課主査	竹瀬 麻紀
委員	清水祐美子	×	保健福祉部保健推進課主査	鈴木 啓之
委員	清野 和彦	○	保健福祉部国民健康保険課主査	青山 昌弘
委員	飯田 鉄蔵	×	保健福祉部国民健康保険課主査	松木 有紀
委員	中川 文人	○	保健福祉部スポーツ健康課主査	佐藤 政喜
委員	熊谷 美香	○	保健福祉部スポーツ健康課主査	高井実生子
委員	花田美保子	○		
委員	百井 宏己	○		
委員	三国 義達	×		

- 傍聴者 4 名

1. 開 会**事務局 (木澤主査)**

皆様こんばんは。

本日はご多忙の折、お集まりいただき誠にありがとうございます。厚く御礼を申し上げます。

まだ到着されていない委員の方が 1 名いらっしゃるのですが、定刻となりましたので、ただいまより「平成 27 年度第 4 回石狩市健康づくり推進協議会」を開催いたします。

会長に議事進行をゆだねるまで、私、保健推進課の木澤が進行役を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

事務局 (木澤主査)

まずは、本日の出欠状況について報告させていただきます。

委員定数 15 名のうち、現在 11 名の委員の出席を得ており、この時点で出席委員が過半数に達しておりますので、本協議会設置要綱第 6 条第 2 項の規定により、本協議会は成立となることを

ご報告いたします。

なお、あらかじめ欠席のご回答をいただいている委員は「我妻委員」、「清水委員」、「三国委員」、の 3 名となっております、まだ飯田委員が到着されていないという状況でございます。

事務局（木澤主査）

次に、配付資料の確認させていただきます。本日配付させていただきました資料として、皆様の机にあらかじめ置かせていただきましたが、このようにひとまとめになっております。「協議会次第」から 1 枚ずつめくっていただきますと、「座席表」、「石狩市健康づくり推進協議会設置要綱」、「諮問書の写し」、「パブリックコメントの意見記入用紙」、「フッ素とシーラントでむし歯予防」と題しましたパンフレット、「石狩市花川北保健センターの開館時間について」、となっております。

その他、事前に配付させていただいた資料として、「石狩市健康づくり計画（第 2 次）石狩市健康大作戦（素案）」、「石狩市健康づくり計画（第 2 次）修正案一覧」、「石狩市健康づくり計画（第 2 次）に寄せられた意見と検討結果について（案）」、「石狩市健康づくり計画（第 2 次）に関する要望書」、「歯周病検診事業等について（案）」となっております。

もし不足や落丁、事前送付資料のお忘れ等がございましたら、事務局にお知らせくださいますようお願いいたします。

なお、本日の議題となっております「歯周病検診事業等について」は、皆様に資料を事前に送付させていただきましたが、健康づくり計画に盛り込んでいる施策について、新年度からの事業化を目指しているものであります。

計画に位置付けております施策の内、34 ページに記載しております「歯周病検診推進作戦」を具現化する事業であり、受診動機付け、いわゆるインセンティブ施策の一つとして、検診料金の一部助成を実施する予定であります。受診者の自己負担の在り方等、諮問事項として、その事業内容をご審議いただく必要がございますので、審議に入ります前に本協議会設置要綱第 2 条に基づき、「諮問書」を会長に交付いたします。

2. 諮問書交付

事務局（木澤主査）

それでは、次第の 3 の (2) の審議事項であります「歯周病検診事業等について」、これより「諮問書」を交付いたします。

保健福祉部健康推進担当部長、我妻より阿部会長に、「諮問書」を交付いたします。

我妻部長

石狩市長田岡克介にかわり代読させていただきます。

平成 28 年 3 月 9 日、石狩市健康づくり推進協議会 会長 阿部 包様 石狩市長 田岡克介代読。次の事項について石狩市健康づくり推進協議会設置要綱第 2 条の規定に基づき貴協議会の意見を求めます。

歯周病検診事業等についてよろしく願いいたします。

阿部会長

謹んで承ります。よろしく願いいたします。

木澤主査

委員の皆様にはよろしくご審議を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

なお、以降の事務局員からの説明等につきましては、大変恐縮ですが着座しながら進めさせていただきます。

3. 審議

事務局（木澤主査）

これより審議に入りたいと存じますが、以後の進行につきましては今までの慣例に習い、阿部会長をお願いいたします。

それでは会長、よろしく願いいたします。

阿部会長

皆様、お疲れ様です。

本日はお忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

本日の議題は、次第にありますとおり、「石狩市健康づくり計画（第 2 次）の策定について」、次に先ほど諮問いただきました「歯周病検診事業等について」となっております。

まずは今年度、引き続いての審議事項となっております、健康づくり計画の策定について皆様にご審議いただきます。

計画の素案につきましては、前回の協議会において各委員よりご意見等を多数いただき、事務局において検討した結果を反映した修正案が後日、皆様に送付されたところであります。

その後、その修正案により、1 月 18 日から 2 月 18 日の期間、パブリックコメントが実施されております。

今回、皆様のお手元にある計画書の素案は、市民から寄せられた意見等を事務局により検討した結果が反映された物となっております。

これより事務局から、その内容について報告いただきますが、皆様のお手元にある資料のとおり、歯・口腔の健康分野の一施策について、本協議会に対し、市内の団体からの要望が書面によりなされており、パブリックコメントにおいても同様の意見が複数の市民より寄せられているところです。

事務局からは先に、その部分以外の検討結果及び修正箇所について説明いただき、次に要望書に関連する内容の説明を受けたいと思います。

なお、この議題につきましては今年度、第 1 回目の本協議会において、市長より諮問書を受け賜っております。

そして、計画の策定スケジュールにおきましても本日の協議会が最後の審議の場となる予定とされておりますことから、パブリックコメントの検討案について、本日、皆様の上承をいただければ、次に計画素案に対する採決をいたしたいと考えております。

限られた時間でもございますので、皆様のお力をいただき、円滑な運営に心がけたいと思えます。

よろしくご協力のほど、お願い申し上げます。

それでは、事務局からご説明願います。

廣瀬主査

こんばんは。保健推進課の廣瀬です。

私からパブリックコメントに寄せられた意見と回答案についてご説明させていただきます。

事前にお送りした資料の石狩市健康づくり計画（第 2 次）に寄せられた意見と検討結果について（案）という資料をご覧ください。

パブリックコメントの実施期間は、平成 28 年 1 月 18 日から平成 28 年 2 月 18 日までの 1 ヶ月間です。意見提出は、10 名で 33 件の意見がありました。1 月 19 日から 3 月 2 日まで当課および関係部局において意見の検討を行いました。

意見への対応ですが、意見に基づき原案を修正する「採用」が 5 件、意見に基づき原案の一部を採用する「一部採用」が 7 件、意見を反映しない「不採用」が 8 件、既に原案に盛り込まれている「記載済」が 3 件、意見を今後の事業展開の参考とする「参考」が 4 件、ご質問・ご意見として伺う「その他」が 6 件となりました。

では、具体的な意見に対する回答案のご説明をいたします。

回答に当たっては、同様の趣旨の意見をまとめ、19 件としています。

それでは、資料の 1 ページをご覧ください。

1 番目の意見、「健康づくりへの取り組みを推進し、ともに助け合い健やかで心豊かに生活できるまちを目指すことを基本理念とします。」などの記述から、健康づくりよりまちづくりに主眼を置いているように感じるとの意見ですが、本計画は、本市まちづくり計画である「第 5 期石狩市総合計画」の個別計画として位置づけられており、健康づくりが結果的にまちづくりにつながるものと考えており、対応としては、その他としました。

2 番のミッションという言葉が強制的なイメージに感じる、また、みんなで進めることが好きでない人もいますので、オールいしかりには無理があるというご意見ですが、ミッションという言葉は、それぞれの立場でできることを行なうという意味であることと、健康づくりの取り組みは、個人で取り組むことを基本としながら、個人の取り組みだけで難しいこともあることから、みんなで進めようという視点も盛り込んでいます。対応は、その他としました。

3 番は、ミッションと言う表現が多数出ていて、わかりにくいという意見でした。ここは、意見を踏まえ、第 3 章の表題を「健康推進プラン」に変更し、採用としました。

4 番のミッションの具体的な取り組み（いつ、どこで、どの様に）なども盛り込むとわかりやすいという意見ですが、ミッションについては、多くの方に参加してもらうため取り組みの例を

示しているものであり、基本的にはそれぞれの立場でできることに自主的に取り組むことを広く呼びかけているものです。また、健康づくり応援団への参加を呼びかけるなど、やりたくなる健康づくりも併せて行っていくことから、参考としました。

5 番目に肥満に関する記述はあるが、痩せに対しては適正体重という表現しかなく、具体的な記述がないという意見ですが、計画書 8 ページ、ミッション 1 に回答案のとりの文章を追加し、採用としました。この部分については、今回の計画書にまだ反映しておりません。

6 番のバランスのとれた食事を食べるという表現については、意見のとおり食事を摂るに変更し、採用としました。

7 番のすこやかロードのニセアカシアに関する意見ですが、道路を管理している部署と連携して対応することとし、その他としました。

8 番のラジオ体操について、真夏など窓が開いているときは騒音となるため、市が推奨しないで欲しいという意見については、近隣住民の方にご迷惑のかからないように配慮して実施していただくよう、合わせて啓発することとし、参考としました。

9 番の「おせっかいは、あったかい」について、うつ状態のときなどおせっかいが苦痛なこともあるため、傾聴などの講習の後に体制づくりをしたほうが良いという意見について、提案のとおり採用としました。

10 番の禁煙対策に関連し、市役所は禁煙とすべきであるという意見について、庁舎内の禁煙に関しては、利用者の受動喫煙を未然に防止することが必要であり、その手法について検討を要することから、「喫煙所に禁煙啓発ポスターを掲示して職員・来庁者に禁煙を促すとともに、受動喫煙防止対策の推進に取り組みます」と変更し、一部採用としました。

11 番の「食後すぐに歯磨きをする」のは、あまり薦められないという説があるという意見についてですが、一般的な歯科指導においては、食後、早めの歯磨きが小児歯科学会でも推奨されています。ただし、「食後すぐに歯磨きをする」より「食後早めに歯磨きをする」とより適切な表現に変更し、一部採用としました。

12 番からは、フッ化物の関係の意見ですので、後ほど、別の担当者からご説明いたします。次に 10 ページをご覧ください。

15 番の予防接種を受けさせるという強制的な表現を使わないで欲しいということと、同時接種に関する意見ですが、本ページのライフ別ミッションにおける予防接種の記載は、生活習慣病対策とは関連が薄いと判断し、削除することとし、予防接種の実施についての保護者への説明や保護者の選択の確保に努め、また、同時接種について、市の判断を示しました。対応としては、一部採用としました。

16 番は、乳幼児期に「健康診査を受けさせる」など命令文章について書き方の工夫が必要という意見を踏まえ、「～を受ける」などに訂正し、採用としました。

17 番のミッションなどカタカナの日本語への変更についての意見は、馴染みが薄いと思われるカタカナ表記をできるだけ日本語に変換し、変換できない、または、ニュアンスが変わるものについては、用語解説を追加し、採用としました。

18 番のホームページによる周知等お知らせ方法に関する意見については、町内回覧や公共施

設、各種イベントで配布する等、様々な機会を捉えてお知らせをすることとしているため、参考としました。

最後に、19番の病気の原因を生活習慣と運動不足と断定的に書くのはいかがかと思う。という意見ですが、国や道の基本方針に則って、生活習慣の改善により予防が可能な病気に主眼をおいているもので、身体活動・運動についても必要な施策とされていることから本計画に盛り込んでいるところではありますが、運動ができない方へも配慮しながら事業の実施を進めていくことで、参考としました。

引き続き、ただ今ご説明いたしましたパブリックコメントの検討結果等に基づいて計画素案を変更しましたのでご説明いたします。

事前に配布しています、〈石狩市健康づくり計画（第2次）修正案一覧〉の資料をご覧ください。

修正内容は、大きく分けて5点に分類しています。

1点目は、説明の追加です。資料の1ページをご覧ください。

パブリックコメントの意見を採用し、メンタルヘルスなどの説明を追加しました。また、2月15日に行なわれた議会の「厚生常任委員会」に計画の説明をした際、議員からあがった意見を踏まえ、健康診査及び健康寿命に関する説明を追加しました。

2点目は、カタカナ表記の日本語への変更です。資料3ページをご覧ください。

3ページに記載のとおり、カタカナ表記を減らすように修正しています。

次に、資料4ページをご覧ください。

3点目は、文言の変更です。

まず、1段目、〈それぞれのミッション〉についてですが、これは、協働の姿におけるそれぞれの役割を前回の案で、〈それぞれのミッション〉としていましたが、ここに関しては、協議会の議論の中で様々な意見があったところでありまして、これまでの議論を踏まえ、今回は、〈それぞれが目指すもの〉としました。

次に、5段目にある正しい歯の磨き方についてのコラムですが、より磨き方に焦点を当てた内容に変更しました。その他については、先ほどご説明のとおりとなっています。

4点目は、文言の修正です。5ページをご覧ください。

誤字の訂正や表記の統一、より適切な表現に変更したものなどで、意味は変わらないものです。8ページまで修正内容を記載しております。

次に、9ページになりますが、5点目については、数値の訂正となっております。数値の誤りや最新データに置き換えたために修正していますので、ご確認願います。

私からの説明は、以上です。

竹瀬主査

こんばんは。保健推進課の竹瀬です。

私から、計画の歯・口腔の健康にあります、強い歯を作る作戦について石狩市健康づくり計画第2次に関する要望書とパブリックコメントに9名の方からご意見をいただきました。

ご意見の内容が重複しているものもいくつかありますので、あわせてお伝えさせていただきますが、原文もご用意しておりますので、後ほどお読みください。

では、事前に配付しています「石狩市健康づくり計画（第二次）に関する要望書」をご覧ください。

今年 2 月 17 日に要望書に記載されています 4 団体から要望をお受けして、あわせて、添付されている資料についても、委員の皆様にお渡ししたいとお預かりしました。要望書の内容に添付資料の内容も記載されていることから、要望書と添付資料をご覧になりながらお聞きください。

要望書に記載されている要望は 2 つあり、1 つは「フッ化物洗口を中止すべき」2 つ目は「計画からフッ化物応用に関する記述の削除を強く求める」という内容でした。

理由はいくつか挙げられていますが、1 つ目として、添付資料の筧光夫氏の論文に、フッ素塗布では歯の再石灰化は起こらないという内容の結論から、再石灰化を信じてフッ化物の応用を拡大するのは問題との内容です。

また、論文の後ろの添付資料にあります、日本弁護士連合会が提出しています「集団フッ素洗口・塗布の中止を求める意見書」からは、フッ化物に対する、安全性、予防効果の疑問、学校等の集団で実施することへの疑問、急性中毒や過敏症状・アレルギーに関する危険性について記載されています。教員や保護者を対象とした調査で、フッ化物洗口後に「吐き気、嘔吐、頭痛を訴えた。唾が出すぎた」との報告もあったと記載されています。

その他の理由としまして、フッ化物洗口剤オラブリスは劇薬であることについて記載されています。

続いて、パブリックコメントのご意見について、先ほど使用していました「石狩市健康づくり計画（第 2 次）に寄せられた意見と検討結果について（案）」という資料の 5 ページ 12 番をご覧ください。

前にお伝えした要望書の内容と同様で、「フッ化物応用に関する記述を削除して欲しい。」というご意見があり、その理由として、重複している部分を除いて、かいつまんでお伝えしますと

- ・個人でする歯磨剤の特記は必要ない。
- ・人為ミス、（フッ化物の）誤飲がないわけではない。
- ・骨フッ素症等の危惧など様々な報告があり、疑わしいものは中止してほしい。
- ・フッ化物配合の歯磨剤は濃度も高く危険性がある等のご意見がありました。

このパブリックコメントと先にお伝えした要望書のご意見について、市の考えをまとめてお伝えしたいと思います。

・まず初めに、この計画の位置づけとフッ化物応用の市の取り組みについては、健康増進法に基づいて、国・道の計画との整合性を図り、フッ化物の応用は科学的根拠が確立されている虫歯予防として国・道ともに推奨している事業で、連携し取り組むことで効果的な虫歯予防対策となることから、計画に位置づけ、推進していくことにしています。

・フッ化物応用の安全性・有効性については、現在様々なフッ化物応用が世界 120 カ国で利用されており、世界保健機関である WHO などが世界各国に実施を勧告しています。日本においても

各専門機関等より、フッ化物応用による虫歯予防法の有用性を一致して支持するとの見解が示されており、現在まで有害作用の報告例は否定されていますので、フッ化物利用の安全性には疑わしいところはないと考えています。

中毒等については、多量に摂取すると中毒をおこしますが、適量では、むし歯予防に役立ち、フッ化物洗口や塗布を適正に使用する場合においては、急性中毒や過敏症状は否定されています。漱口液の誤飲については、例えば、体重 20kg の幼児が、週 5 回法の漱口液を、25 人以上を一度に飲み込まない限り、急性中毒を発生させる心配はありません。

フッ化物配合歯磨剤についてですが、国内においては、薬事法によりフッ化物濃度基準が定められ、安全性は確保されており、通常虫歯予防に利用するフッ化物は、適量で中毒を起こすことはありません。

また歯のフッ素症や骨硬化症の慢性中毒は、フッ化物洗口を開始する時期である 4 歳頃には、永久歯がほぼできあがっているため、審美的に問題となる前歯のフッ素症になることはありませんし、骨硬化症が発生する心配はありません。本市を含め道内約 9 割の 160 市町村で実施されておりこれまで健康被害は確認されていません。

アレルギーについてですが、これまでに虫歯予防に利用するフッ化物そのものでアレルギー反応を生じたという信頼される報告は無く、専門機関や学会においても、フッ化物とアレルギーの関係は科学的に否定されています。また、フッ化物はあらゆる飲食物に含まれ、日常からフッ素を摂取しており、フッ化物が原因でアレルギーを起こしたという事例の報告がありませんが、過去にフッ化物洗口でアレルギーが疑われた事例があります。調べていくと漱口液ではないことが確認されています。

フッ化物洗口剤は危険性があるという誤解は、薬事法の「劇薬」という表現も関係していると思われる。フッ化物洗口剤は、保管や使用しやすいように粉末になっているため、その濃度が「劇薬」に相当する濃度となっていますが、処方通り、水に溶かして使用する時には普通薬として扱われ、何も問題はありません。

以上の理由から、要望書の内容である「フッ化物洗口の中止と計画からフッ化物応用に関する記述の削除」については「要望には応じられない」とし、パブリックコメントの対応としては、「不採用」としました。

次に、9 ページをお開きください。

13 番フッ化物応用に関する記述を掲載するなら、副作用やリスクを盛り込むべきとのご意見については、フッ化物の適正な応用では、急性中毒・過敏症状は否定されていることから副作用等は記述しないと、対応は不採用としました。

14 番の①フッ化物洗口は危険が多く集団の洗口に反対、廃止すべきとのご意見について、集団で継続的に洗口を実施することで家庭環境に左右されず、効果的な虫歯予防対策が講じられることから事業廃止の考えはなく、対応はその他としました。

次に、10 ページをお開きください。

②の親の選択性を考慮すべきについては、フッ化物応用は、決して強制するものではなく、事業への参加は、保護者に希望の有無を確認し、個人の利益は守られるものと考えていることから、対応はその他としました。

③歯磨き剤選択の自由はないのかのご意見について、フッ化物を強制するものではないことから、対応はその他としました。

④ブラッシングに重点をおいた指導をすべきとのご意見については、ブラッシングだけではフッ化物ほどの歯質強化は困難であり、各種の方法を組み合わせる必要があると考えており、ブラッシングについては、すでに計画にも記載されています。

最後に、当日の配布資料にフッ素とシーラントで虫歯予防という薄緑色のパンフレットがございますが、フッ化物洗口やフッ素について書いていますので、参考にお読みいただきたいと思います。私からは以上です。

阿部会長

ありがとうございます。

ただいまの事務局からの説明を踏まえまして、これより、ご質問・ご意見等をいただきたいと思えます。

特にフッ化物の応用に関しましては、専門的な見地からのご意見等も必要かと思われまます。

まずは、歯・口腔の健康づくりにおいてフッ化物の普及を推進している、北海道としての意見を廣島委員より伺いたいと存じますので、よろしく願いいたします。

廣島委員

はい。道としてこのフッ化物を進めるという中で、以前に、歯・口腔の健康づくり 8020 推進条例というものを作りました。その時にも当然このフッ化物を推進するという中で道議会の方の議論もありまして、その中で、十分検討を行ったということがあります。今現在、フッ化物洗口やフッ化物の塗布の有効性、安全性についてですが、例えばWHO、厚生労働省、日本歯科医師会、その他の専門機関・専門団体が一致して認めているというような状況であります。フッ化物洗口を推進するという形で道としては進めています。

説明の中にもありましたけれども、今現在、市町村で約 9 割の自治体でフッ化物の洗口については始めていただいている状況になっておりますし、進める中で、何らかの問題があったということは今のところ無いという状況になっています。

当然、フッ化物を進める中で、各市町村でも、本当に安全で有効なのかという議論はあったと思いますけれども、そこを丁寧に説明させていただいて、道からも説明にいており、ご理解した中で、始めているという状況になっています。

阿部会長

ありがとうございます。

次に、歯科の専門家からのご意見もいただきたいと思えます。

江頭委員、いかがでしょうか。

江頭委員

はい。石狩歯科医師会は札幌歯科医師会に属していますので札幌歯科医師会の会長名で出されている見解がございますので、その一部抜粋して読ませていただきます。

「学校内でのフッ化洗口実施に向けては、様々な立場の方の協力と理解が不可欠です。

フッ素は社会保健機構（WHO）国際歯科連盟（FDI）などの世界的に権威のある専門機関や、厚生労働省、日本歯科医師会が推奨しているように適正な手法を守れば、虫歯予防に安全で効果的に利用することが出来ます。

札幌歯科医師会は専門医の立場でフッ化物洗口に対する正しい情報や知識を市民の皆様にお伝えするのが使命と捕らえ、今後とも明日を担う子どもたちのお口の健康を守るために邁進してまいります。」とこのように会長名で出されておりました、これに伴って我々歯科医も市民の皆様に正しい情報と知識を提供していきたいと思っております。

フッ素に関しては、濃度と量を適量を守れば全く安全であり、フッ素だけ濃度抜きにして高濃度の副作用などかなり言われるのがちょっと心外ですけれども、薬はどんな薬であっても適量を守らなければ、かなり高濃度で与えてしまえば害になってしまいますし、薬だけではなく食べ物でもそうです。NaCl塩化ナトリウムですね。平たく言えば食塩ですけれども、化学式がフッ化ナトリウムに近いFに近いので食塩で説明させていただきますけれども、食塩も普通の家に必ずあるものですが、安全なものと思われていますけれども、食塩も濃度を守らなければ、皆さんご存知の高血圧、慢性疾患にかかってしまいます。もっと大量の量を1度に摂取すると急性中毒を起こします。吐き気や嘔吐を起こします。

どんなものでも適量を守らなければならない。適量を守っている限りは安全であるということです。その辺を理解していただいて、名前などで誤解を与えたり、使い方間違いのないように正しい知識と情報を我々としては与えていきたいと考えております。

阿部会長

ありがとうございます。

引き続き、皆様からのご質問・ご意見等をいただきたいとおもいますが皆様いかがでしょうか。委員のみなさま。

天野委員

北海道で今進めていることを廣島委員から聞いたんですけども、北海道で進めているのは幼稚園・保育園だけではなくて、小学校・中学校までではなかったでしょうか。

廣島委員

そうですね。

天野委員

石狩市では小中学校の実態はどうなっているのですか。

武田課長

石狩市内においては、小学校中学校以前の保育園幼稚園児の年中年長さんで実施しています。

阿部会長

よろしいですか。

天野委員

今後小中学校では実施しないのか、するのかお聞きしたかったのですが。ただ保育園幼稚園で実施している取り組みを載せているという感じしかしません。

武田課長

基本的には実施するにあたり、子ども達が洗口液を作ることはできないので、先生が用意します。園側で受け入れ態勢が整うか園として実施可能かどうかという判断もありますし、小学校中学校についても受け入れ態勢が整わないと実施できない状況なので、まず体制が整った保育園幼稚園から始めている状況です。

天野委員

お聞きしたかったのが、小中学校は反対という意見も聞くので、実施しやすいところから始めているように見えます。その辺りを考えると、保育園幼稚園だけというのが意図的に考えて実施していると感じました。WHOは、6歳未満の児童にはフッ化物洗口を実施すべきではない、禁忌であるといっていますが基本的には、保育園と幼稚園で6歳未満という一番危険なところから実施しているのはどうしてなのかなと思いました。

武田課長

WHOの6歳の指摘については、見解の相違で、適切な用法用量に基づいて行えば問題は無く、開始は年中年少で大丈夫というふうに考えております。実施しやすいところからという部分は先ほどもお伝えしたように、準備の整ったところから始めているというところです。

阿部会長

よろしいですか。他にご意見等ございませんか。

はい、どうぞ。中川（賀）委員。

中川（賀）委員

今、歯科医としてのご意見をいただきましたが、歯科医の中で反対している人などはいないの

でしょうか？全体が見えにくいので。

江頭委員

歯科医としてはほぼ 0 です。全国的に反対される方は数名いらっしゃいますけど、0.1%にも満たないと思います。特に歯科医師会に所属している先生の中で反対している方は 1 人もおりません。

中川（賀）委員

歯科医同士であれば反対している先生ともディスカッションができると思うのですが。

江頭委員

反対している先生にお会いしたことがないのでわかりません。日本中探さない限りなかなか出会えないと思います。

阿部会長

他にご意見ありませんか。

天野委員

先ほどの話ではこの要望書を 1 回限りで判断する形にしたいということでしたよね。

阿部会長

今回に関しては原則その方向です。

天野委員

1 回で判断するのであればフッ化物洗口についてはいろんな意見があり賛否両論があるので、この協議会のこの 1 回の時間の中で判断するのは難しいと思います。

WHO の賛否の話もありますし、この協議会が正當に判断するのであれば、ただ行政側が提案してきたからといって 1 回で判断するのは難しいと思っております。健康づくり大作戦に記載しているものは、市民みんなで一緒にやろうというのが今回の第 2 次計画の目的であり、一緒にやろうというのがいいということで素案が決定したのだから、一方的に白黒をつけるのではなく、反対の人も参加しやすい表記にしたほうがいいのではないのかと思います。歯科医の先生の話を読んで共感する人もいますし、この作戦については、別に両論併記してもいいし、反対意見もありますという形で記載してもいいのかなと思います。日本弁護士連合会は、当初、実際に個別にフッ素塗布することに関して反対もしておらず、ただその個人に選択の自由がなくなるから集団で実施するのはどうなのかという意見だったのに対して、国は答えてくれなかったので、弁護士会が反対の立場になったと思います。札幌歯科医師会のお話を否定するものではないですし、日本小児歯科学会でも虫歯の予防にフッ化物応用が極めて有用な手段であると結論付けていますが、

この小児歯科学会が重要なことを書いていまして、集団的応用時の注意点として、日本学校歯科医会が学校における学校歯科医の為のフッ化物応用ガイドラインの中で、インフォームドコンセントあるいはインフォームドチョイスが成立していることが極めて重要としている。反対の方にも一定の配慮を示している。日本小児歯科学会では、フッ化物応用は極めて有用ですと言っていますが、ただ、フッ化物の効果について理解を求めることは重要であるが、集団的応用を希望されない方には、フッ化物を含まないもので洗口できるような配慮も必要と思われると書いていまして、一応対立している意見の方にも配慮されている形になっているわけで、今回健康づくり計画を策定するにあたり、一方的に白黒をつけるのではなく反対の方にも配慮した書き方にしたほうがいいと思います。

幼稚園保育園で反対しているところを知っていますが、フッ化物応用については、子どもたちが誤飲したときの安全性が保てないから反対している保育園もあり、その安全性の話と効果がありますという話とは、違う論点なので絶対に対立が生じると思います。だから決め付けなくてもいいと思います。

江頭委員

行政側でも、フッ素洗口を望まない子たちに対する配慮はされています。

望まない子に対しては、フッ素洗口をする必要はありませんし、望む子に対してその権利を奪っていいのかということになると思います。

だから、フッ素洗口したい子には機会を与えてあげてもいいと思います。

阿部会長

はい、ありがとうございます。

いかがでしょうか。たぶん、フッ化物だけではなく、集団でやる場合には望まない人達が受けなくて済むということでちゃんと守ってあげるのが筋だと思います。そこが確保されていれば問題は無いと思いますが。いかがですか。

他の委員の皆さんご意見ありませんか。

大林委員

フッ化物洗口の是非については、フッ化物の安全性の問題だと思います。

それに対して、正直に言って、専門的知識を有さない方々がここで議論してもなかなか是非論までに至らないと思います。

ですから、江頭委員がおっしゃったように、私個人的には濃度の問題だと思っておりますので、ここをクリアしていれば、安全性の問題については、一定程度確保できているだろうと理解していますので、この場でこの要望書に対してもっと議論を深めていこうということは避けたほうがいいのではないかと考えております。

私は、全面的に江頭委員のご意見に賛同させていただきます。

阿部会長

ありがとうございます。

今、大林委員から意見がありました。専門的な立場や行政の立場や道と江頭委員のご説明を受けたわけです。

私たち、その他の委員がそれを越える判断材料はないですね。おそらく。

そこまでしか私は言えないのですが。いかがですか。

中川（賀）委員

今おっしゃったとおりだと思いますが、ただ、結論が判断できないということで江頭委員のご意見に賛成だということは、わかりにくい構図になっていると思います。どちらかという、天野委員はもう少し説明を詳しくしてということをお願いしたかと思いましたが、インフォームドコンセントというような配慮も含めて説明したほうがいいと思いました。

阿部会長

どうですか。

武田課長

非常に難しい問題かなと思っています。計画の策定にあたっては、基本的にここに記載ある歯に関しては、国でも法律があり、それに基づく指針が告示されていて、年齢にあわせてフッ化物を応用しなさいということになっており、それに基づいて道が条例と計画をつくり、それにあわせてガイドラインを作り、順序だてて国から道に整理された中でフッ化物の応用を推奨するという中で取り進めて全国的に行っている事業ですので、ここに書いている内容について、国と道と一緒に連動しながら施策展開するということが重要だという観点で記載しています。

記載内容についても、特別石狩市が踏み込んだような書き方ではなくて、北海道とほぼ同じように書いておりますので、議論については先ほど廣島委員のほうからもありましたとおり、十分北海道においても議論された中で出来上がっているものと認識しています。

市としては、先ほどの、一番大事なインフォームドコンセントというところについては、色々な議論があり市も園と進めていく中では十分説明しながら、薬の量の問題であったり、参加については事前に親御さんに説明をし、市からでも道からでもあわせて来て欲しいのであれば我々が出向いて、説明会の場も設定しています。事前に参加意向をとって、参加いただく方に対しては十分配慮した中で事業を実施しております。現在も問題が起きていないというのは先ほど北海道全体の話でありましたけれども、そういう状況でありますので、ご提案として進めていきたいと思っております。

阿部会長

いかがでしょうか。国の方針、道の方針に準じた形で市町村も実施したいということですね。

天野委員

北海道のガイドラインには小中学校におけるフッ化物洗口の記載がありますよね。だから、市の方針としては、道の方針に準じた形で行っているというのであれば、小中学校も含めた記載になるべきではないでしょうか。保育園、幼稚園のみを記載して、都合のいい方向で記載をしてしまっているのではないのでしょうか。

日本小児歯科学会で虫歯の予防にフッ化物洗口が極めて有効であると結論付けていまして、そのことを否定してもいません。しかし日本小児歯科学会ではきちんと反対される人の配慮もした記載をしています。ここでぶつかるのであればせつかく計画を進めていこうとしていく中で、もめてぶつかってすすめていけるのでしょうか。協議会は実際のところ市が提案するものをただ了承というように実施するのであれば、行政の単なる隠れ蓑になってしまいます。そのように進んでいくことがないように協議会は作っていくものであり、江頭委員の反対意見を言っているつもりもありませんし、行政が強行に進めていくことに少し止まって考えてみてもいいのかなと言っているのです。また、小中学校の先生方の中でフッ化物を反対されているのを知っているの、市は実施しやすいところから、始めているのではないかと思います。道の方針に準じた形で行っているという言い分であれば、小中学校も含めた記載をするべきではないのでしょうか。この要望書を提出された団体さんから見ても、やりやすいところから始めているので強行的にフッ化物応用をすと思われていてもしょろがないと思ひます。この計画を実施しようとするのであれば配慮した形で記載すればどうかという話をしているのです。

百井委員

教育委員会としてこの協議会に出席しておりますので、小中学校の話題で何も発言しないのはいかなものかと思ひますので、小中学校の現状を説明いたします。市が行う取り組みに対して教育委員会が歩調を合わせて、その取り組みに対して理解をしていくということに関して確認はしています。それを実施するにあたっては教育委員会の判断が必要であろろうと思ひます。

ここに書いてあるとおり、天野委員のおっしゃるとおり、取り組みに大事なものは理解だと思ひます。ここは適切な表現であると思ひますが、理解を深めてそれと同時に利用を促進するということでもありますので、理解が前提であるということでは理解しております。

市の取り組みとしての時間の差があつたとしてもしょうがないと思ひます。教育委員会としては否定する否定しないという結論はでていません。これから、具体的な検討をするということで、市と情報の交換等しながら検討したいと思ひます。私からは以上です。

阿部会長

どうですか。大林委員の意見にもあつたように、この場で意見をいただいて、今回の協議会のみで理解をしていただくのは難しいですよ。

天野委員

この健康づくり計画を委員の皆様がいいという意見が多かった中で、策定するにあたり対立することなくみんなと一緒に進めていくのがいいと思います。

中川（賀）委員

幼稚園・保育園の文言のところでズレがあり、そこがクリアできないのであれば要望書を書いてきてくださった皆様のご意見にも配慮したほうがいいという話だったと思いますが、もう少しこの文言を入れたほうがいいとかそういう提案はありますか。

天野委員

日本小児歯科学会の資料は持ってきており、別に事務局に置いていってもかまいません。

中川（賀）委員

そういう文言を入れることでその問題はクリアできるということですか。

天野委員

強行的に進めているような印象を受ける文言が書いてあるのであれば、一方的な文言をやめればいいだけです。実際フッ化物洗口に反対した保育園に行政職員が 8 人くらいで理事長 1 人のところに押しかけたことがあったはずですが強制的に見えると思います。

阿部会長

事務局いかがですか。

武田課長

事例の話だと思いますが、そのようなつもりは一切なく、そのように思われるのであれば強制的にみられないような形で修正したいと思いますし、ベースになっている国と道が全て同じような記載内容にすることもありませんので、市町村なりの書き方があると思います。私たちもこの案を作成するときに石狩市では、反対意見の方がいるのは十分承知していて、不安や懸念を持っている方はいらっしゃる。配慮したなかで石狩市としては、単に利用を推進したり、普及したりというような表現にはせず不安をもっている方に配慮し一般の方は読みにくいと思いますが、「応用の理解を深め」と書き込んだところです。

阿部会長

個人的には、質疑応答の状況をみていると、ここで決めていいのか疑問があります。

私が読んだ中では、強制するつもりもないし、ご理解していただくために努力していくのはありますけど。そのあたりが全員理解した上で採決したいなと思います。文言の修正が必要という意見もありますし、私と事務局で預かって結論付けるのは、避けたいと思います。本当は、ここ

で採決をして決めたいと思っていましたが、私にはできません。当初の予定から遅れてしましますが、皆さんはどうでしょうか。

清野委員

私、今回でフッ化物のことを少し詳しくなったのですが、文章も読ませていただいて、その中でパンフレットにあります、全国でフッ化物洗口の実施でこれだけ 25 年間で右肩上がりが増えてきています。これは、全国的に推奨した結果、施設も人数も増加しているとは読めませんが、この中で読み取れないのが何施設中なのか、対象者数が何人のうちの何人なのかを読み取れませんが推奨した結果として現れていることだと思います。32 ページの強い歯を作る作戦の中で「理解を深め、利用を促進します。」という文言にありますように、武田課長が言うことを理解します。決して強制ではないこと、選択の余地を与えていること、私はこの件について、計画を読み進めていくなかで素人ながら客観的に見たところそのように解釈いたします。

阿部会長

私も一委員として同じ意見を持っていますが、ここに座っている立場とすれば判断が難しい。

中川（賀）委員

小中学校と保育園、幼稚園の文言の関係ですが、私は対象を減らして記載する分には問題ないと思います、対象を拡大して記載していたら問題あります。

我妻部長

ご議論していただいた中で、小中学校の部分、要望書をいただいた方の配慮など、お話ししましたが、もう少し配慮があってもいいのではないのかという部分については、例えば、計画自体には異論はないが、進めるにあたり配慮してほしい、するべきだということを答申書に附帯意見として書いた中で、本日採決いただけるような状況というのはいかがでしょうか。

阿部会長

ありがとうございます。

天野委員、今、ご意見を持っているということですが。

天野委員

日本小児歯科学会のフッ化物局所応用についての考え方の記載でそういう配慮ができるのではないかなと思っています。

大林委員

先ほど、百井委員のお話から前段の「啓発します」の部分について、小中学校を入れたらどうなのでしょうか。

天野委員

小中学校と入れたら百井委員、教育委員会の委員会で理解を得られるでしょうか。

百井委員

強い歯をつくる作戦自体が、フッ化物の話をしているのかどうかだと思いますが、前段で丈夫な歯を作るには、甘いおやつを取り過ぎないなどの啓発は今までも小中学校で行っていることなので記載する部分については、なんら問題はありません。逆に保育園、幼稚園、小中学校と限定するほうが問題だと思います。記載することに問題はありません。強い歯をつくる作戦自体がフッ化物であると捕らえる方がいらっしゃるようであれば、誤解がないような文言に変更する必要があると思います。みなさんどう捉えますか。

天野委員

皆さんが賛成多数で決めるのであれば従いますが、小中学校と記載すればもっと反対はでて、対立が先鋭化するのかなと思います。実際に日本小児歯科学会でも虫歯の予防法としては、「フッ化物応用は極めて有効であり、フッ化物の効果について理解を求めることは重要であるが、集団的応用を希望されない方へは、フッ化物を含まないもので洗口できるような配慮も必要と思われる。」と書かれております。

阿部会長

そのあたりは配慮なされていますよね。

天野委員

だから、配慮がされているということに記載してほしいというのが要望書ではないかなと思います。私は要望書を見た時、そのように受け取りました。しかしこの計画書からは実際に配慮するというのが見えないのでその文言に記載するべきではないかと思います。

中川（賀）委員

今、天野委員がおっしゃったサンプルの一部が入ればいいんじゃないかということですか。

天野委員

フッ化物洗口には、要望書のような反対意見もあり、WHOの推奨されているという意見もあって、この協議会の中ではどちらがいいというのは決められないと思います。だから今、中川（賀）委員もおっしゃってくれましたが、それを入れてあげた方がいいのではないかと思います。

中川（賀）委員

少し文言を変えて一度確認したいということですか。

天野委員

強制的でないことを確認できれば問題ないのかなと思います。

阿部会長

それを強い歯をつくる作戦の中に配慮に関係する文言を入れればいいということですね。実際行っていることを文言でも入れておくということですが、事務局いかがでしょうか。

我妻部長

天野委員のおっしゃる配慮の言葉というのは、例えば要望書の中からどの文言を入れたほうがいいのかという提案はございますか。今回決めないと、次回の協議会の具体性が見えないので。

天野委員

先ほどもお話したところですが。

中川（賀）委員

ここに書いてあるものをサンプルとして読みますけれども、「さらにフッ化物の効果について理解を求めることは重要であるが、集団的応用を希望されない方へは、フッ化物を含まないもので洗口できるような配慮も必要と思われる。」というような。

我妻部長

個々人への配慮という表現が配慮しているということによろしいでしょうか、例えば応用の理解を深めた後に、個々人への配慮をしながらという表現はいかがでしょうか。実際には、配慮のもとで説明や同意をいただいて実施していますが、そのような表現が必要ということであれば、どうでしょうか。

阿部会長

よろしいですか

天野委員

はい。

阿部会長

それでよろしいのですか。

天野委員

はい。

阿部会長

今ご提案があった、応用の理解を深めの後に個人々人への配慮をしながらという文言をいれれば
いいと天野委員はおっしゃるのですが。

天野委員

私が言ったり、中川（賀）委員も読んでくれましたが、表現を一字一句同じにしてほしいと言
っているわけではなく、配慮を付け加える、その例として話をしたつもりで、何回も話している
のですが、行政側がそのまま使用したいのであればどうぞ。

阿部会長

天野委員の発言の中にあと一点、フッ化物ではない選択肢も配慮の中にはいっていたような気
がします。

天野委員

日本学校歯科医会の学校における学校歯科医のためのフッ化物応用ガイドブックでは、現在の
日本において、日本歯科医師会が進める、かかりつけ歯科医機能が充実されつつ、児童・生徒の
口腔疾病が軽減される状況において、保健管理としてのフッ化物応用は、地域の歯科医療機関に
委ねてもいいのではないかという見解を示して、集団のフッ化物洗口を推進していないとい
う日本学校歯科医会のそういう話もあります。普段かかっている歯科の先生を頼りにするこの方
法が望ましい方法と思うのですが、自分の支持する考え以外は認められず、これを記載してほし
いと言っているわけではありません。

阿部会長

天野委員が言いたいことは、幼稚園、保育園、小中学校と組織レベルではなく、個人レベルで
フッ化物を活用して推進するのがいいとおっしゃるのですか。

天野委員

江頭委員が言っていたように、望む子に対してその権利を奪ってしまう部分なく、フッ化物洗
口をしたい子には機会を与えることも配慮しなければならないと思います。

阿部会長

文言は、個人々人の配慮しながらということによろしいですか。

天野委員

この計画は、市民皆さんの想いを全て書くことはできないです。例えば、パブリックコメント
の喫煙のところ、市役所は全館禁煙すべきという強い意見があったのにも係らず、来庁者に配
慮するためという記載をして全館禁煙をすることはできないような回答をしていますが、しかし

来庁者は何分庁舎に滞りますか。それを考えると市役所を全館禁煙にしても来庁者にはあまり影響はでないと思います。全館禁煙にしてしまうと、市の職員が困るからこの表現にしたのだと思いますが、このようなことをするのであれば、もう少し様々な方に配慮した書き方をしてもいいと思います。市役所の喫煙について、市職員に配慮した記載をしているわけだから他の分野のところでも配慮があつていいのではないかと思います。私は以前、禁煙啓発ポスターの掲示だけでは効果はないと発言したと思います。喫煙室をなくすべきではないかという意見に対して対応が一部採用になっていますが、これは一部採用ではないですね。不採用ではないですか。この計画がはじまるにあたって様々な方に配慮した書き方をしてもいいと思いますがいかがでしょうか。

阿部会長

渡したものにアンダーライン等は引いてあるのですか。

天野委員

はい。

阿部会長

いただいた文言の方向性について、文言挿入は事務局として大丈夫ですか。

我妻部長

今、天野委員から資料いただきましたが、要望する方々、集団応用を希望されない方、に配慮する表現を入れることは、問題ありません。その文言については、いただいた資料などを参考に会長とご相談させていただいて、改めて協議会を開くということではなく、書面で決定という形でやらせていただければなと思っています。

阿部会長

ご意見いただく機会を設けるということですか。

我妻部長

はい。

阿部会長

みなさまよろしいですか。

<委員うなずく 了承する。>

今いただいた意見をもとに私と事務局でまとめたいと思います。

それまで、時間がかかりますがよろしく願いいたします。

皆様からいただいた、配慮の意見について私と事務局で整理をして反映させたいと思いますが。

もう一度お尋ねします。よろしいでしょうか。

<委員 はい 了承する。>

ありがとうございます。

それでは、その他ご意見ご質問ありますか。

大林委員

フッ化物洗口以外にですね、検討結果でNo.3の部分ですが、第3章の健康推進ミッションを今回プランにご意見を頂戴して採用になったという形で出されていますが、私は、P5の第2章の協働の姿できっちりミッションのあり方をうたっている、健康推進ミッションとしてそれぞれの分野でミッション①ミッション②とうたっており、このあたりは、個人的にぶれることなく、ミッションで通したほうがいいと思います。健康推進プランにしてしまうと、ミッションとの整合性に疑問があります。

阿部会長

いかがですか、前回私から、本文のほうでミッション①など書いているものと、健康推進ミッションと書かれているもの、別の次元で記載しているものが2つあるとかえってわかりにくいではないかと私のほうから発言したと思います。大林委員は健康推進プランをミッションにすることですね。

大林委員

そうです。

武田課長

最初ミッションと書いていまして、わかりづらいというご意見をいただきました。その中に領域の具体的なミッションが生きるような形にしたほうがいいのではないかとこの視点のご意見をいただき採用し、各領域のミッションと混同しないようにプランという言葉を採用しています。ここは、皆様から再度ご意見をいただいて方向性を決めていただければと思っています。

阿部会長

いかがでしょうか。選択肢は2つです。ミッションに改めると、プランでいくのか、第3の意見もあるかもわかりませんが、ご意見ございませんか。目次をみると、ミッションというのがひとつも出てこない。本文を見ないと。

中川（賀）委員

私は題目の次に番号が来て、その下位にミッションがついてきているので、私の提案は2つ「健

康推進プラン」のままか「健康推進のためのミッション」という表現がいいのかなと思います。

阿部会長

大林委員、「健康推進のためのミッション」というのはいかがでしょうか。

大林委員

それでもいいです。

阿部会長

いかがでしょうか、こういうので挙手というのはいかがなものかと思いますが、賛同いただけますでしょうか。

<挙手 賛成多数のため可決>

阿部会長

ありがとうございます。

事務局申し訳ありませんが、「健康推進のためのミッション」というように改めてください。

それでは、歯周病検診事業等について、審議したいと思います事務局よろしくお願いたします。

事務局（鈴木主査）

それでは、歯周病検診事業等について、保健推進課鈴木からご説明させていただきます。表紙をめくっていただき、事業のねらいとして、現在策定中である第 2 次健康づくり計画に記載しております「歯・口腔の健康」における様々なミッションの内、受診動機付け対策として『歯周病検診推進作戦』を掲げており、歯を失う大きな原因となっている歯周病予防を推進するため、事業内容を見直し、ライフステージごとの口腔機能の維持・向上の実現に向け、定期的な歯科検診を受診する機会の拡大を図ろうとするものであります。

1 番、既存事業の歯周病検診事業の実施目的は、健康増進法に基づく健康増進事業として実施する検診事業です。歯を失う大きな原因となっている歯周病予防と早期発見を推進し、市民の健康水準の向上に資することを目的に実施するものです。

事業対象者については、妊婦及び 40 歳・50 歳・60 歳・70 歳と考えております。既に先行実施の札幌市及び江別市を参考に健康増進法で国が示している 40 歳・50 歳・60 歳・70 歳にターゲットを絞り、更に市独自の対象者として妊婦を加え、個別に受診勧奨及び検診を実施しようとするものであります。

実施方法として、市と札幌歯科医師会との連携事業として位置づけ、委託契約に基づく市内歯科医療機関で検診を受診する個別方式で実施したいと考えております。身近な「かかりつけ歯科医」で受診ができる個別検診を採用することで受診機会の拡大及び利便性の向上が図られ、受診者数の増加につながるものと考えております。

次に 2 番、新規事業の後期高齢者歯科健康診査事業の実施目的は、北海道後期高齢者医療広域連合の保健実施計画に基づく歯科健診事業であります。口腔機能の低下防止や誤嚥性肺炎等の疾病予防を図り、後期高齢者の健康の保持増進に寄与することを目的に実施するものです。

事業対象者については、後期高齢者医療の被保険者としております。

実施方法として、北海道後期高齢者医療広域連合から事業を受託し、市が歯科健診事業を行います。

歯周病検診事業と同様に市内歯科医療機関で検診を受診する個別方式で実施したいと考えております。

裏面をご覧ください。

現行と H28 年度改正案をまとめた表となっております。2 事業の対象者、受診方式については、先ほど述べたとおりでございますが、検診料金の自己負担額導入については、他のがん検診事業等と同様に負担の公平性の観点から受益者負担は必要と考えており、他市の状況を参考に 40 歳・50 歳・60 歳は 500 円、70 歳の 300 円につきましては、他の検診等の 70 歳以上の自己負担額との均衡を図るため低めに設定しております。

妊婦の無料につきましては、当市でも実施している妊婦健康診査に必要な経費を交付するなど、近年、妊婦に対する健康管理の必要性や経済的な理由等により健康診査を受診しない妊婦もみられるところであり、母子や胎児の健康確保を図る上で、妊婦に対する保健指導及び健康診査の重要性、必要性が一層高まっているところです。

女性が安心して妊娠・出産ができる環境を整備するとともに、子育て支援の観点からも、無料と設定しようとするものであります。

また、市民税非課税世帯の方及び生活保護受給者につきましては、他の検診等と同様に自己負担額を無料としております。

次に後期高齢者歯科健康診査の自己負担額については、高齢者を対象としている健診であることから、歯周病検診における 70 歳以上の自己負担額と同額の 300 円で設定しようと考えております。

また、市民税非課税世帯の方につきましても、同様の取り扱いとするものであります。

次に事業実施時期については、市民周知の期間も含め平成 28 年 6 月から開始予定と考えております。

参考といたしまして、管内で既に実施しております札幌市と江別市の自己負担額を記載しております。

これら歯周病検診事業の内容と自己負担額の設定について、ご審議賜りますようお願い申し上げます。

阿部会長

ありがとうございます。

ただいまの事務局からの説明を踏まえまして、ご意見ご質問を受けたいと思います。特に話ありましたけど、自己負担額について、ご意見をいただきたいと思います。

参考に札幌市と江別市の金額が載っています。

よろしいでしょうか。賛成の方挙手をお願いいたします。

<委員挙手 賛成多数により可決>

過半数の賛成をいただいております。

それでは、次にその他に移りたいと思います。

事務局（鈴木主査）

花川北保健センターについてご説明させていただきます。市民の疾病の予防及び健康の維持増進を図るため、保健センターを「総合保健福祉センターりんくる」内に設置しております。対象となる部屋は「検診室」、「リハビリ室」、「健康増進室」であります。このたび、「りんくるの開館時間」を本年 4 月 1 日より見直すにあたり、市民参加手続き（パブリックコメント）を実施し、12 月の市議会において条例案が可決されたことで、同じ建物内で施設管理者が異なる保健センターの開館時間についても、「りんくるの開館時間」と同様に取扱うことから、保健推進課において別に定める規則を改正することとしています。

詳細については、本日配付しました資料となっております。

報告は以上であります。

阿部会長

ありがとうございます。石狩市健康大作戦について挙手をいただいていたので先ほどの文言の修正、挿入を前提とした上で、素案について賛成の方は挙手をお願いしたいと思います。

<委員挙手 過半数により可決>

歯周病検診のことについては答申書が必要になりますので、ご出席委員の過半数を超える賛成をいただきましたので、本協議会設置要綱第 6 条第 3 項にあり

ますように、本件については「可決」といたします。

なお、答申書については健康づくり計画と同じ取り進め方で、私と事務局とに一任いただきたいと考えておりますが、いかがでしょうか？

(各委員より了解をいただく)

ありがとうございます。

私と事務局の責任の下で取り進めて参ります。

他になれば、連絡事項に移りたいと思います。

事務局（木澤主査）

今後のスケジュールについてご説明いたします。

計画書につきましては、P32 の強い歯をつくる作戦の文言修正が必要であると結論づいたのでこの部分につきましては、先ほど会長からもご提案がありましたとおり、委員も皆様には修正案を書面にてお示しし、それについて、ご賛同を得られればこの計画の素案を完成というものに近づけていきたいなと思っております。そのプロセスを得たうえで市役所内での決裁をして、成案としたいと考えております。

そして、市ホームページや広報 5 月号で特集記事を掲載する等、様々な機会により市民に公表いたします。

スケジュールにつきましては以上となります。

最後に健康推進担当部長、我妻より、皆様にご挨拶を申し上げます。

我妻部長

閉会にあたりまして、私からご挨拶差し上げたいと思います。各委員の皆様には、昨年より熱心かつ活発なご審議をいただきました、石狩市健康づくり計画おかげさまで一部修正はございますが、皆様がこうして集まっていただいてご審議というのは、これにて終了ということになりました。この新計画では、表紙にもありますとおり、やらなければならない健康づくりから、やりたくなる健康づくり楽しい健康づくりに転換するとしまして、個々の市民だけではなく地域全体で健康を進めるオール石狩といった視点で取り組むこととしております。市としましても市民の健康づくり運動が実践されていくように地域、企業などとも連携図りながら取り進めてまいりたいと存じます。最後になりますが委員の皆様には大変お世話になりました。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。本当にありがとうございました。

阿部会長

それではこれもちまして、「平成 27 年度第 4 回石狩市健康づくり推進協議会」を閉会いたします。

遅くまで皆様、お疲れ様でした。

平成 28 年 5 月 20 日 議事録確定

石狩市健康づくり推進協議会 会長 阿 部 包